

## 学生大使 実施報告書

氏名：佐直萌生

学部・学科（コース）・学年：人文社会科学部・人文社会科学科（総合法律コース）・1年

派遣先大学：ガジヤマダ大学

派遣期間：2月26日～3月13日

### 1 日本語教室での活動内容

ひらがなが分からないという学生から、日本で就職や留学を考えるほど日本語が流暢な学生まで様々なレベルの学生がいた。そのため、初めに日本語を学びたい理由と出来るようになりたいことを聞き、その内容に応えられるような授業を各々の日本語レベルで教えることを意識した。

例えば、将来日本に遊びに行きたいから日常会話が話せるようになりたいという学生には、簡単な日本語のフレーズや道の尋ね方などを中心に教えた。その際、話すことを重視し、文字を書いて教えることは最小限にした。日本語は初めて学ぶということだったので、授業は英語で行った。他にも、日本の農業に興味があり、将来日本の大学で学ぶことも考えているという学生には、日本の農業に関する授業を行った。日本語レベルは中級程度だったため、英語と日本語を混ぜながらの授業となった。自分は農業に関する知識をあまり持っていなかったため、事前に調べてから授業を行っていた。また、後日に他の学生が自分の研究室に連れて行ってくれ、植物を研究している様子を実際に見せてくれたのがとても刺激的だった。さらに、日本語がかなり流暢で、日本で心理学の先生になりたいと言っていた学生もいた。その方には完全に日本語で授業を行い、フリートークも多く含めながら一緒に日本語の絵本を読んだ。全てひらがなで書かれた小学生向けの絵本だったが、作中に出てくる「切ない」や「恋しい」などの微妙なニュアンスの違いがある感情表現方法が不思議だったようで、気が付けば学生と私で熱い議論を交わしていた。将来日本で就職活動を行うときには、一緒に履歴書の書き方や面接の練習をすることを約束した。

また、私がラマダーンというイスラムの断食月に関する疑問や、小学生のときに行われるという謎の国歌斉唱の儀式についての質問などをガジヤマダ大生にし続けていたら、授業時間が終わっていたこともある。日本語授業をしているときも皆積極的に聞いてくれていたが、私がインドネシアの文化を知ろうとしたときも、嬉しそうに自ら教えてくれたことが印象的だった。相手国への関心は隠さないで、気になることは自分から沢山質問するのが良いと感じた。

### 2 日本語教室以外での交流活動

昼食は日本語クラスの学生達と学食で食べた。大学構内にあるカフェで甘いアボカドジュースを飲んだことがとても新鮮な体験だった。日本ではアボカドは野菜として食べることを伝えると皆驚いていた。夕食の時間も休みの日も、サポーターの方達や日本語授業で出会っ

## 【学生大使 実施報告書】

た友達とずっと過ごしていたため、現地の人と離れて過ごした瞬間が全くなかった。休日は世界遺産の寺院やインドネシアのプリクラ、動物園や遊園地、博物館などに遊びに行った。一番印象に残っているのが、かなりの悪天候の中で森と海に出かけたことだ。でこぼこの狭い山道を車で走るところから悲鳴をあげていた気がする。土砂降りのなか森を歩き、海に入ったことは一生忘れられない。道中色々なハプニングがあったが、それも含めて最高の思い出になったし、綺麗な景色を見て海ではしゃいだことが本当に楽しかった。日本ではできないことを思い切り体験させてくれたサポーターの皆さんには感謝の思いしかない。

また、ガジャマダ大学に留学していた韓国の留学生とも友達になった。祖母に貰った着物を日本から持参していたので、日本語教室でできた他の友達と一緒に私達が宿泊していたゲストハウスに招待して、着物の着付けをした。さらに、炊飯器を借りて一緒にちらし寿司を作ったりもした。美味しいと喜んでいる姿を見て、私も幸せな気持ちになった。個人的にガールズトークを沢山できたことがすごく嬉しかった。また、最終日の夜ご飯は、日本語教室で知り合ったパキスタンの方たちに伝統的なパキスタン料理をふるまっていた。最後の最後まで毎日が充実していたし、色々な国の友達と交流することが出来て本当に嬉しかった。

### 3 参加目標への達成度と努力した内容

参加目標として、「精神的に成長すること」「日本の文化を広めてくること」を挙げていた。参加する前の自分と後の自分を比較してみると、どちらも達成できたと思う。今までは新しいことに挑戦するとなると臆病になってしまい、あまり大きな挑戦をしなかった。だが今回、思い切って初めての海外に挑戦することを決め、その時点から自分の中の一つの壁を乗り越えられたように感じる。また、今までは他の人に任せていたような場面でも、自分から能動的に行動できるようになったと思う。自分がこんな風に変わる事が出来たのは、「臆してしまう自分を変えたい」という気持ちで参加した初心を忘れないように常に意識していたことと、サポーターの皆さんがいつも支えてくれているという安心感があったからだ。皆さんには心から感謝している。

また、日本の文化を広めてくるという目標に関しては、ちらし寿司を作って着付けを行ったこと、花笠を踊ってきたことから、十分に達成できたのではないかと感じている。笠は現地の方が農業用として実際に使っていたものを借りた。Farewell party の他に、急遽 2000 人が集まる結婚式でも花笠を踊ることになった時は緊張した。だがこんな経験は二度と無いと思い、最後まで楽しんで踊ることが出来たので良かった。このときも自分の精神の成長を感じられて嬉しかった。

### 4 プログラムに参加した感想

初めての海外ということもあり、行く前は不安の方が大きかった。だが帰国した今、「行ってよかった、本当に楽しかった」という思いだけを強く抱いている。インドネシアの方達のリアルな生活を体験するのも面白かったし、何よりも初めてできた日本人以外の友達と交流

## 【学生大使 実施報告書】

するのが本当に楽しかった。料理がほぼ辛かったり、独特の国民性があったりなど、日本との違いを感じる場面は多々あったが、それも全部刺激的で楽しい体験だった。二週間がこんなに充実したものになるとは思わなかった。

このプログラムに参加して良かったと心から思う。また、初めての海外の国がインドネシアで本当に良かった。

### 5 今回の経験を踏まえた今後の展望

今回のプログラム中に、自分が英語でもっと色々話せたらいいのと思う場面が多くあった。そのため、今後は自分の英語能力を向上させることにより一層励んでいきたいと思う。また、私が接した多くのインドネシアの方達は、インドネシア語ではなくジャワ語で会話していた。それを聞いていて、私もジャワ語で話せたら面白いだろうとジャワ語に興味を持つようになった。そのため、ジャワ語の勉強にも今後取り組んでみたい。

また、今回の経験で、もっと海外に行って現地の人と触れ合ってみたいと強く思うようになった。今までより海外について調べる時間が圧倒的に増えたと感じる。英語の勉強を続けつつ、これからも海外に挑戦できる機会を見つけたら参加してみたいと思う。また、今回沢山手助けされた経験から、今度は私も手助けする側になりたいと思うようになった。そのため、今は留学生を手助けするチューターへの参加を考えている。

6 現地での活動写真

日本語教室の様子



皆で動物園！





結婚式で花笠演舞



橋から落ちるハキさん達

